

八ヶ岳赤岳～横岳・硫黄岳縦走 山行報告

(山城) 八ヶ岳連峰

(コース) 赤岳鉱泉から赤岳・横岳・硫黄岳

(日時) 3月11日(土)、12日(日)

(天候) 晴れ

(参加者) 佐藤(単独) 赤岳鉱泉までは宮城 P と一緒

(山行タイム)

11日 美濃戸口 9:00-09:40 美濃戸-堰堤広場 11:00-11:45 赤岳鉱泉

12日 赤岳鉱泉 05:45-(休憩)-06:20 行者小屋-文三郎道-07:45 赤岳-09:15 横岳-(休憩)-10:30 硫黄岳-11:10 赤岳鉱泉(大休憩 昼食・昼寝)15:00-16:55 美濃戸口

今週末も好天なので何人かに声をかけたけれども予定が合わないので、久しぶりに単独でどこか行こうと考えていたところ、宮城 P が赤岳鉱泉でアイスクライミング練習をやるというので車に同乗させていただいた。赤岳だけでは物足りないので、状況がよければ横岳縦走をやることにした。ソロテントを使うのは入会以来、1年半ぶりである。赤岳鉱泉ではテント泊でも 2000 円で豪華な夕食をいただけるのは大変ありがたい(朝食は 1000 円)。食事後、宮城 P と歓談したあと、テントに戻って翌日の準備をして明日に備えた。夜空には星が輝き翌日の晴天を予感させた。

朝 4:30 頃、寒い中えいっという気持ちでシュラフから体を起こした。気温マイナス 13℃、寒い。テントの内側が凍っていた。外に頭を出すと空は快晴、ヤル気が出てくる。コーヒーを入れてまずは体を温めたあとカップ麺をすすり、身支度を整えてだいぶ明るくなった 5:45、赤岳に向けて出発した。

装備：ピッケル、ヘルメット、12 本爪アイゼン、スパッツ、グローブ、インナーグローブ、ネックウォーマー、風は弱い予報なのでゴーグルは置いていった

サブザックの中身：ロープ(7mm×20m)、スリング長短、カラビナ 2 個、ヘッドランプ、テルモス(紅茶&コンデンスミルク)、菓子パン、行動食、ツェルト、UL ダウンジャケット、貴重品、救急キット

行者小屋は赤岳鉱泉よりもテントの数が多く、さながらテント村の様相である。阿弥陀岳への分岐を分けて文三郎道を進む。雪は適度に締まり、キュッキュッと音を立ててとても心地よい。階段状の歩きやすい斜面を徐々に高度を上げていくと中岳・阿弥陀岳との分岐点、このあたりからやや風が強い。さらに高度を上げて、キレットへの分岐から急な雪面を登り詰めると山頂直下、少し登って赤岳山頂に達した。時計を見ると 7:45、赤岳鉱泉を出発してちょうど 2 時間、今日はかなり調子がいい。

空気が澄んでいるという感じではなく、やや霞んではいるが(もう春ですねー) 360 度の大パノラマ、富士山、金峰山、南アルプスから中央、北アルプス、白馬三山までよく見えた。刺すような寒さではなく風も穏やかで春山気分。数枚写真を撮ったのち、山頂を後にし、予定時刻より 1 時間以上早いので、予定通り横岳縦走をやることにした。

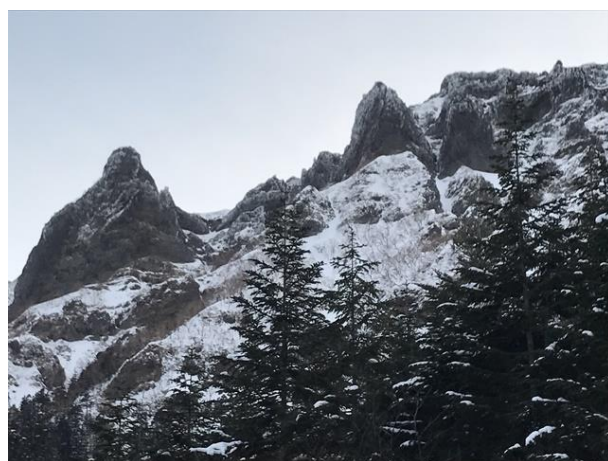
赤岳天望荘、地蔵の頭を過ぎ、二十三夜峰のくぼ地あたりで、最初の休憩を取った。無風でポカポカと暖かいので昼寝してしまいそうである。この先の日ノ岳のルンゼ、40度くらいの雪面を慎重に登った。さらに鉾岳の基部を左に巻いて茅野側に出る。ここの下りの鎖場が凍結していて要注意、さらに急斜面のトラバース。雪が堅いと緊張を強いられるがそんなことはなかった。しばらく快適な稜線が続き、杣添尾根への分岐を過ぎて横岳本峰の奥の院に立った。この先の下りが狭いリッジ、鎖場を下って、さらにハシゴが続く。以上で危険箇所は終了～、今回は雪の状態が良く非常に歩きやすかった。大ダルミに向かってダラダラと下り（このあたりは岩が露出して歩きにくい）、冬季休業中の硫黄岳山荘で2回目の休憩を取った。屋根付近まで雪が積もり、屋根がちょうどよい腰掛けである。

ラストは硫黄岳。ケルンを左手に見送りながらダラダラと登った。山頂付近は人が多い。風が弱い硫黄岳は初めてである。硫黄岳からの下りでは途中からアイゼンを外してシリセードを楽しみ、ほどなくして赤岳鉱泉に到着、時計を見ると11時ちょい、今回は終始快調だった。宮城Pはどこでやってるかなー、とアイスクャンディーをぐるりと回るといったいた。ちょうどお昼どきだったので一緒に鉱泉で昼食を取り、皆は武器を替えてもう一度アイスクャンディー、自分は自堕落なお昼寝タイム。

帰りは、もみの湯でサッパリ、洋食レストラン「ペチカ」で満腹のコンボでシメた。



赤岳鉱泉で夕食、今回はビーフシチュー



翌早朝、中山峠から



行者小屋から阿弥陀岳



文三郎道をひたすら登る



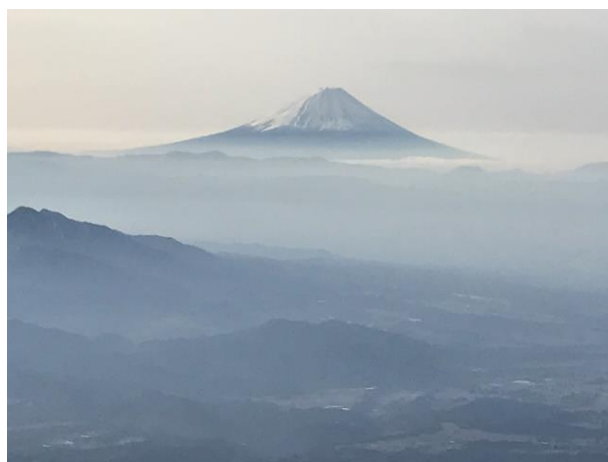
階段状で歩きやすい



阿弥陀岳と御嶽山



赤岳山頂



富士山がよく見えた



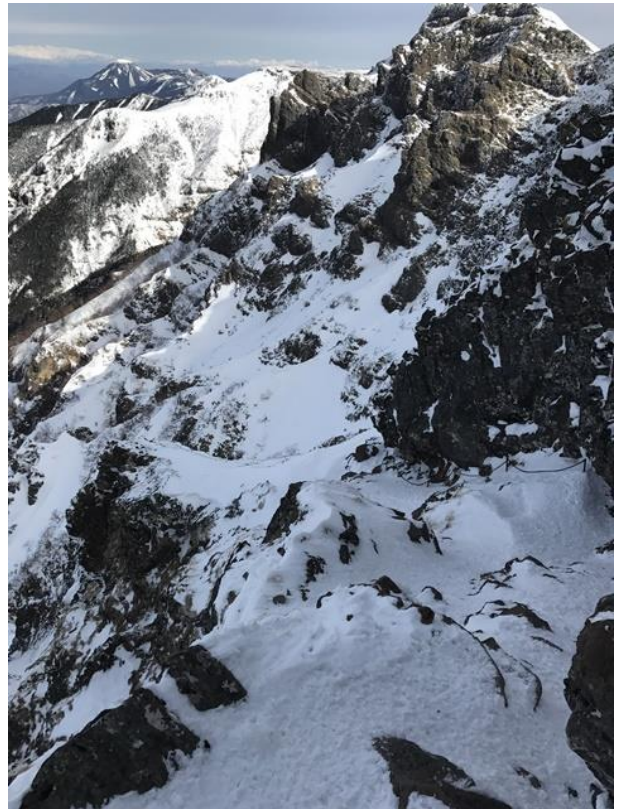
権現岳と烏帽子、奥に北岳・甲斐駒・仙丈



赤岳からの下り、横岳・硫黄岳方面



正面（日ノ岳）のルンゼ、雪の斜面を目指す



次に鉾岳の基部を左に巻いて茅野側へ



イエーイ！



横岳本峰 奥の院



硫黄岳



我が家に無事帰還、お疲れ様～